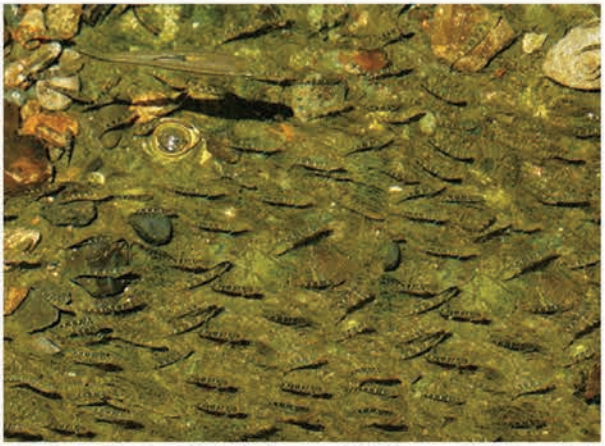
鎌倉淡水魚紀行
砂押川編③

清流の息吹を訪ねて
ウキゴリ
～夏の終わりを告げる魚～

鎌倉湖から柏尾川へ流れる砂押川にカメラを向けていると、多くの方がつられて川を覗きます。興味もって声をかけてくださる方には、ささやかなお土産話になればと、解説をしています。そんな私も自然から教わることが多々あります。今回は魚が教えてくれる「小さな秋」について、お話したいと思います。

暦(こよみ)の上で立秋(8月7日)を過ぎた頃、砂押川をはじめ市内河川に「ウキゴリ」というハゼが一斉に海から上がってきます。大きさは柿ピーほどの小粒で、一見他のハゼと混同しがちですが、ウキゴリは中層を浮遊していることで区別がつきます（通常ハゼは川底にベタっとはりついている）。因みに「ゴリ」というのは、地方で小さなハゼの総称として使われ、それが浮遊しているから「ウキゴリ」。何とも単純なネーミングです（実はそれが正式名称になっています）。そしてゴリにまつわるお話をもう一つ。物事を無理に押し通すという例えで「ゴリ押し」が使われますが、これはゴリを網に追い込む「ゴリ押し漁」の様子からきています。

市内河川での人気を二分するアユやオイカワのような華やかさはありませんが、様々な魚からの教えを知ることで、お魚観察の深みがより増していくのかなと思っています。



ウキゴリ（稚魚）の群れ。小粒で地味な魚ですが、これが訪れると夏の終わりを実感します。

このコーナーは、市内山ノ内で釣りに関するアドバイスなどを行う㈱フィッシュナビの代表で、「魚の専門家」の八鳥洋二さんから寄稿いただいています。